

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
義肢装具学演習		必修	1	3	後期(集中)
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
小川 麻里子 他	C315	m.ogawa	木曜日 10:40~13:00		
授業の目的・概要	義肢・装具に関する臨床のイメージを定着できることと、対象者に適合した基本的な上肢スプリントを製作できることを目的とする。 臨床で活躍している作業療法士から義肢に関する実践事例を学ぶ。また、頸髄損傷、末梢神経損傷、骨折、腱断裂、リウマチ性疾患など上肢スプリントが適応となる疾患と障害の理解を踏まえ、4種類の基本的なスプリント製作とレポートの作成を行う。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・レポート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	義肢装具学の履修者が参加する。準備、製作、後片付けなど演習はグループワークが主体となる。演習の一連の過程でチームのメンバーとしての役割を果たすこと。				
教科書	作業療法全書 改訂第3版 第9巻 作業療法技術学1 義肢装具学/著:古川 宏 他/編:古川 宏(日本作業療法士会:監修)/協同医書出版社				
参考書	手のスプリントのすべて(第4版)/著:矢崎 潔/三輪書店 義肢装具と作業療法 評価から実践まで/編著:大庭 潤平 他/医歯薬出版 PT/OT ビジュアルテキスト 義肢・装具学 異常とその対応が分かる動画付き 第1版/監修:高田 治実/羊土社				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	基本的なスプリントの構造や適応を説明できる。			OT(2)	
②	基本的なスプリントを製作できる。			OT(2)	
③	基本的なスプリントのチェックアウトと修正ができる。			OT(2)	
④	基本的なスプリントの材料、用具、対象者に合わせた製作手順を説明できる。			OT(2)	
⑤	グループワークを通じて目標を達成できる。			OT(1)、(3)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	授業オリエンテーション、短対立スプリントの製作・修正① 【小川 麻里子、浅野 克俊】	講義・演習・実習	短対立スプリントについて義肢装具学を復習する。	1	
2	短対立スプリントの製作・修正② 【小川 麻里子、浅野 克俊】	演習・実習	製作物を修正し、教科書や配布資料で装具の概要を復習する。	1	
3	短対立スプリントの製作・修正③ 【小川 麻里子、浅野 克俊】	演習・実習	製作物を修正し、教科書や配布資料で装具の概要を復習する。	1	
4	カックアップスプリントの製作・修正① 【小川 麻里子、浅野 克俊】	演習・実習	カックアップスプリントについて義肢装具学を復習する。	1	
5	カックアップスプリントの製作・修正② 【小川 麻里子、浅野 克俊】	演習・実習	製作物を修正し、教科書や配布資料で装具の概要を復習する。	1	
6	筋電義手の構成・評価・訓練の作業療法実践について学ぶ 【野口 智子】	講義	教科書 p66~83 と配布資料で予習・復習	1	
7	義手訓練の実践、小児切断の作業療法実践について学ぶ 【野口 智子】	講義	教科書 p85~121 と配布資料で予習・復習	1	
8	小児義肢の作業療法実践 【野口 智子】	講義	教科書と配布資料で復習	1	
9	ナックルバンダーの製作・修正① 【小川 麻里子、浅野 克俊】	演習・実習	ナックルバンダーについて義肢装具学を復習する。	1	
10	ナックルバンダーの製作・修正② 【小川 麻里子、浅野 克俊】	演習・実習	製作物を修正し、教科書や配布資料で装具の概要を復習する。	1	
11	ナックルバンダーの製作・修正③ 【小川 麻里子、浅野 克俊】	演習・実習	製作物を修正し、教科書や配布資料で装具の概要を復習する。	1	
12	尺側偏位防止スプリントの製作・修正① 【小川 麻里子、浅野 克俊】	演習・実習	尺側偏位防止スプリントについて義肢装具学を復習する。	1	
13	尺側偏位防止スプリントの製作・修正② 【小川 麻里子、浅野 克俊】	演習・実習	製作物を修正し、教科書や配布資料で装具の概要を復習する。	1	
14	装具製作・修正のまとめ① 【小川 麻里子、浅野 克俊】	演習・実習	授業で使用したプリントを用いて復習する。	1	

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科/旧カリキュラム】

15	装具製作・修正のまとめ②	講義	授業で使ったプリントを用いて復習する。	1
試	スプリントとレポートを提出することで試験に替える			

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	30	50	0	20	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	20	0	0	30
	思考・推論・創造する力	0	10	10	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	10	10
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	5	5
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5
	問題を発見・解決する力	0	10	10	0	0	20
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	4 種類のスプリントについて臨床的な面に着目して実用的な「実習ノート」を作成する。 評価基準:スプリントの名称、適応となる疾患・障害、目的、製作上の注意点、チェックアウトのポイント、使用する材料の 6 項目(各 10 点)、対象者の症状、皮膚の状態、体格の相違などによる製作上の注意点、工夫した点(各 20 点)。合計点を総合点の 30%に換算。				演習・実習の過程で随時助言指導する。提出後、修正点を記してスプリントとともに返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	見本製作のデモンストレーションを見学し、メモをとる。不明な点を質問する。対象者に適合した 4 種類の上肢スプリントを製作し、完成させる。チェックアウトと修正を行う。 評価基準:スプリントの製作方法(50 点)、スプリントの完成度(50 点)について評価する。合計点を総合点の 50%に換算。				スプリント製作過程で随時助言指導する。スプリント提出後、修正点を記してレポートとともに返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①		2 人 1 組で実習・演習を行う。各ペアは互いに患者とセラピストの役割を果たし、互いに協力し、目標を達成する。 評価基準:準備、危険防止、互いに適切な役割を果たす、演習中の用具・材料の管理、後片付けの 5 項目の協力度(各 20 点)。合計点を総合点の 20%に換算。				演習・実習の過程でペアごとに行動目標を定め、助言指導する。
	②						
	③						
	④						
	⑤	✓					
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	浅野 克俊、野口 智子(非常勤講師)						
教員の実務経験	本科目の担当教員は、作業療法士として 10 年以上の臨床経験を有する。						
実践的授業の内容	臨床における治療で得た知見に基づき作業療法に必要な基本的実技・知識を教授する。						
そ の 他	<p>実技授業のため登校授業である。</p> <p>ケーシーの実習着、ズボン、靴を着用し、教科書、筆記用具を持参する。互いにモデルとなるので重ね着などする際は、肘関節が出せるようにする。</p> <p>配布資料を保管するファイルを準備する。</p> <p>事故防止のため長い髪は束ね、爪を切りそろえておく。</p> <p>大学構内での授業に際して、大学が公表している感染症対策および教員が示す授業方法を厳守すること。</p> <p>問題がある場合は、授業の参加を認めない。</p> <p>今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性がある。</p>						